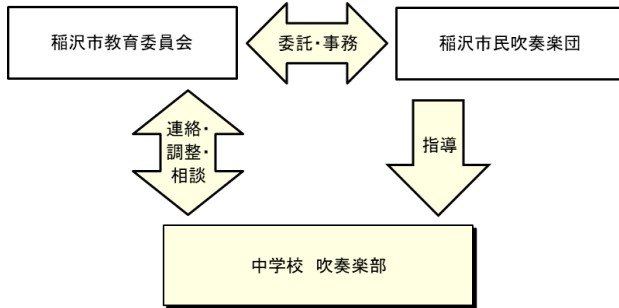


## I. 基本情報

- 運営主体： 稲沢市（教育委員会）、稲沢市民吹奏楽団（市民団体）
- 事業目標： 部活動の地域移行に向けた取組の、地域活用への取組への一つとして行う。地域住民が学校のために協力いただける環境を構築する。市内で初めての顧問以外の指導による練習の集大成として演奏会を開催する。

## 団体・組織等の連携



## II. 活動概要・取組

稲沢市内で唯一の市民吹奏楽団である稲沢市民吹奏楽団に文化部活動実証事業を再々委託することにより実施した。事業を行う対象校については、実証事業ということもあり、市内9中学校のうち1校で実施する計画とし、校長会において治郎丸中学校プラスバンド部を選定してもらい、事業を行うこととした。

指導日は主に土曜日の午前中の部活動となり、試験や学校行事のほか長期休業の期間を除いて実施した。1回当たりの指導者数は、計画時には2名でよいと考えていたが、実際には楽器毎に指導も異なるという事情を考慮して、7名の指導員が受けもつという体制ができた。実施回数においても年間をとおして40週程度を想定したものの、先述のとおり、部活動休止期間が設けられているため事業としては22回の指導となった。

発表の場がこの事業期間中に2回あり、どちらも名古屋文理大学文化フォーラム（稲沢市民会館）において11/12の稲沢音楽祭にて特別出演という枠で指導者の市民吹奏楽団と一緒に演奏を行い、客席からは盛大な拍手をいただき、指導を受けてきた生徒たちの成長も然ることながら、本事業の活動の成果として良い機会に恵まれた。なお、発表会の参加に際して、業者に楽器運搬を委託する等、本事業を活用した。

## III. 成果

部活動の地域移行に向けた取組として、趣旨として掲げられている地域の人々による部活動支援を実施していく上で可能かどうかを検証する機会となった。

今回の取組では、主として学校の音楽室に地域の外部指導者が訪れ、生徒は平日の通学のように学校に来ることができ、使用する楽器も自身が普段使っている学校の物を活用できることのほか、毎回顧問や副顧問の教員が立ち会い、学校側も受け入れ体制を整えて指導員を迎えてもらったことで、円滑な活動を行うことができたと考えている。

複数の地域部活動指導員によりパート毎、楽器毎に指導することで、効果的に指導することができ、生徒の技術向上につながっている。また、楽器指導の点で、顧問の教師が専門でないパートを指導いただけることで負担軽減につながった。

本格的な地域移行が始まる場合での取組は、現在別途地域移行に向けての在り方を検討するために設置している稲沢市部活動地域移行検討委員会において研究中であるが、今回の規模での実施はその一例として一つ一つの内容を検証材料としてリアルに提示できることは最大の成果であると考えている。

## 活動種別

吹奏楽

## 運営形態

地域移行・団体等運営型

## 活動場所

治郎丸中学校

## 鍵、校舎管理の工夫・現状

教職員が管理

## 参加生徒の基本情報

人数：47名  
活動日：年22回 主に土曜日  
活動時間：2時間30分/日

## 指導者の基本情報

稲沢市民吹奏楽団団員  
1,600円/時間

## 活動財源・自己調達財源

文化庁事業委託費 48万円  
団体自己負担 2万円

## IV. 課題と今後の方針

今回の実証事業が、顧問の立会い、音楽室の提供、校舎内への休日の立入りなど学校の協力により円滑に進めることができたことは言うまでもなく、本格的な移行時に全て今回と同じ対応を期待することはできないものと理解している。

受託者の稲沢市民吹奏楽団において聞き取りを行った際に、例えば、各校での指導となった場合、同時対応は4校までであるとの意見を伺ったことから、一長一短あることを認識することになった。

今後も、地域クラブ方式も含め、様々な事例を研究し、引き続き部活動地域移行検討委員会を重ね、市として対応可能な在り方を早急に見つけ出さなければならないと感じている。